

被災者を模した人形を心臓マッサージをしながら運ぶ機動隊員ら。八街市八街へ



## 大地震を想定し 埼玉県警と訓練

県警、八街で

大規模災害に備え、千葉、埼玉の両県警が、八街市で合同の救出・救助訓練をした。両県警の機動隊員や佐倉署員ら約100人が、ビルの倒壊現場などから安全に市民を助け出す手順を確認した。

訓練は八街市が震源の震度6強の地震が起きた想定で、土建業「大同産業」の敷地で5月27日に行われた。隊員らは倒壊したビルや土砂崩れを模した現場から、ガス検知器や土砂の落下を防ぐパネルを使って、被災者に見立てた人形を救出。心臓マッサージをしたり、担架で安全な場所に運んだりした。警視庁の専門家が指導した。

大規模災害では、全国の警察官が協力して活動することが少なくない。この日は、両県警が声を掛け合いながら訓練をした。千葉県警の塩川義憲・災害対策室長は「今後も一緒に訓練し、お互いに技量を高めたい」と話した。